

【付録】

アフリカで事業展開する企業に対する英国の公的支援事例

目次

民活インフラ開発グループ（PIDG）	2
グローバル・イノベーション・ファンド（GIF）	7
AgDevCo.....	10
CDC グループ.....	11
エネルギー・環境パートナーシップ（EEP）	14

※各社 HP より抜粋（2020 年 4 月時点）

民活インフラ開発グループ (PIDG)

インドラマ (Indorama) 肥料工場-ナイジェリア

PIDG 傘下の新興アフリカ・インフラ・ファンド(EAIF)は、2018年8月、インドラマ・エレメ肥料会社(IEFCL)に対する11年間の融資3,500万米ドルのファイナンス・クローズを達成した。

背景

EAIF は過去に、IEFCL 初のポート・ハーコート肥料工場の建設に4,880万米ドルの融資を行っており、この工場は現在フル稼働している。新工場は、エネルギー、水、港湾設備を供給する既存のインフラを活用する。また、隣接するオンネ港のインフラは、拡大する肥料工場のニーズに合わせて拡張される。現在のプラント建設時に設置されたガスパイプライン84kmに、IEFCL 施設向けの新たな11kmのパイプラインがすでに連結されている。

-

プロジェクト

2018年8月、EAIF は、インドラマ・エレメ肥料会社(IEFCL)に対する11年間の融資3,500万米ドルのファイナンス・クローズを達成した。この取引は、ナイジェリアのポート・ハーコートにある同社の既存肥料工場の拡張費用11億米ドルの一部に充てられる。新工場は既存設備の並びに建設されることになっている。これにより同社の年間生産量は2倍の280万トンになる予定である。

これはEAIFが大規模なインフラ・プロジェクトを可能にし、民間銀行が新興市場への投資に対する信頼を高めていることを示す融資の好例である。

IEFCLの実績と、民間銀行が8年ローンを選好するのに対して、EAIFのような債務提供者が11年ローンを供給しているという融資構造から、国際的な民間銀行はプロジェクトの支援に魅力を感じている。このプロジェクトは、ナイジェリア経済の戦略的利益に公的資本と民間資本を融合させ、何百万人もの人々に目に見える利益をもたらしていることを示す好例である。

-

インパクト

このプロジェクトは、尿素の輸入を廃止するとともに、尿素肥料に対する国内需要の高まりに対応するためのナイジェリア政府の取り組みを直接支援するものである。ナイジェリアにおける尿素肥料の自給自足へ向けた重要な第一歩として、農業の効率化と収穫率の向上に貢献することが期待されている。新工場を建設するために3,830名の従業員が雇用される予定で、稼働すれば、608人が正社員として働くことになる。建設には最大37カ月かかる見込みである。

ギガワット・ソーラー (Gigawatt Solar)

ルワンダの炭素排出量を年間 8,000 トン削減する。クリーン電力は、急増する人口の生活水準を向上させるための鍵である。

背景

ルワンダは、家庭や企業への電力供給に関して、輸入化石燃料に依存している。燃料輸入は、環境的・財政的コストが高く、価格変動の影響を受けやすい。ルワンダ政府は、同国の経済成長に向けた意欲的な計画の鍵を握るものとして、固有の燃料源、特に再生可能エネルギーの開発を挙げている。同国の発電設備容量には限りがあり、ルワンダ人のわずか 18%しか近代的な電力を利用できていない。ルワンダの人口は急増しており、手頃な価格でクリーンな電力のアクセスが、生活水準を向上させ、将来の同国の潜在的経済力を高める上で鍵になると思われる。

-

プロジェクト

EaIF はルワンダの東部州で太陽光発電(PV)施設の開発を支援した。EaIF は 2,370 万米ドルの資金を民間部門やその他の DFI (開発金融機関) から調達し、ギガワット・ソーラーの建設資金として 1,060 万米ドルの長期融資を行った。このプロジェクトは、この種のプロジェクトに通常必要とされる 8~12 ヶ月よりもはるかに早い、わずか 3 ヶ月でファイナンス・クローズを達成した。アフリカ東部初の実用規模の民間太陽光発電施設として、ギガワット・ソーラーは、ルワンダのナショナルグリッドに 8.5MWp のクリーン電力を供給している。開発者のギガワット・ソーラー・コープラティブ (Gigawatt Solar Cooperatif) は、社会的企業アガホゾ-シャロム・ユース・ビレッジ (Agahozo-Shalom Youth Village : ASYV) から借り受けた土地に、迅速にソーラーファームを建設することができた。

-

インパクト

ギガワット・ソーラーはルワンダの設備容量に 6%を上乗せし、6 万人以上の人々のために新しく、クリーンな電力へのアクセスを向上させた。このプロジェクトによりルワンダの炭素排出量は年間 8,000 トン削減される。プロジェクトによって 200 人の建設雇用、また 15 人の常任ポストが創出された。プロジェクトの融資金融の仕組み (融資期間 17 年)により、料金は重油や軽油に比べてかなり低く、1kWh あたり 0.25 米ドルという競争力を維持することができている。このプロジェクトのために設定された規制の枠組みは、サハラ以南のアフリカの他の地域でも転用される大きな可能性を秘めている。

クオンタム・ターミナル II (Quantum Terminals II)

ガーナの将来のエネルギー安全保障を保証する。PIDG GuarantCo の支援により、クオンタム・ターミナルは、10 年満期の初の現地非金融機関債を発行

背景

ガーナの経済発展は、インフラ不足、とりわけエネルギーおよび運輸部門の不足によって妨げられ続けている。LPG (液化石油ガス)の国内生産を 2014 年に開始したが、関連するインフラが不足しているために燃料の利用が制約され、国内の広範な地域は、主に再生不能な資源から集められた木炭や木材に依然として依存している。ガーナ政府は、LPG を家庭の燃料木材や輸入石油・石炭よりクリーンで安価な代替品とし、ガーナのエネルギー部門への浸透度を高めることに取り組んでいる。

-

プロジェクト

このプロジェクトは、同国ジュビリー (Jubilee) 油田の近くにあるアトゥアボ (Atuabo) に拠点を置いている。ガーナの石油・ガス取引グループの一部であるクオンタムグループは、ガーナにおける LPG の利用を高めるため、500m³ の LPG 貯蔵タンク 3 基、積載用ガントリー 3 基、および関連インフラを建設するための資金を必要としていた。同社は、国際通貨 (ハードカレンシー) と現地通貨を適切に組み合わせた資金調達に関して困難に直面していたが、GuarantCo による 1,200 万ガーナ・セディ (540 万米ドル)の保証により、同社のメインバンクであるスタンダード・チャータード・バンク・ガーナ (Standard Chartered Bank Ghana) は、プロジェクトを実施するために必要な国際通貨と並んで、資金調達の現地通貨部分も提供し、投資障壁を克服することができた。

当初の QTL プロジェクトでは、ガーナのアトゥアボに LPG(液化石油ガス)の積載・貯蔵施設を建設し、これをスタンダード・チャータード・バンクと GuarantCo が支援した。プロジェクト終了後、クオンタムは、同施設を現地通貨建て債券で借り換えることを希望した。クオンタム社はこの取引を支援するための保証を GuarantCo 社に求め、これは市場で初めて発行される非金融機関の現地社債となる。

-

インパクト

アトゥアボの施設は、ジュビリー油田からの国産 LPG の供給に特化した初の貯蔵ターミナルであり、クオンタム・ターミナルは政府の長期的な燃料安全保障計画の鍵となっている。このプロジェクトにより、推定 200 万人の人々が安価な LPG を利用できるようになり、ガーナの採集木材への依存度が低下し、経済活動への関与が高まり、危険水域に達した森林伐採のペースが鈍化することが期待される。LPG は、石油、石炭、バイオマスに比べ、キロワット時あたりの CO² 排出量が格段に少ない。重要な貯蔵・流通インフラの建設を支援することにより、CO² 排出量を削減し、ガーナの燃料安全保障に貢献し、将来の経済発展を促進する。GuarantCo の支援によ

り、クオンタム・ターミナルは 10 年満期で初の現地非金融機関社債を発行できるようになる。この画期的な取引は、現地資本市場への参入を希望するガーナの他の企業の前例となるだろう。

カラングラ (Kalangala) ・ インフラサービス (KIS)

より明るい未来のための関係づくり。マルチセクターの改善により、島民にとって新たな機会を生み出す。

背景

ウガンダ、カラングラ (Kalangala) 地区にあるビクトリア湖のブガラ (Bugala) 島は、この 10 年間で変貌を遂げてきた。以前のブガラ島はウガンダの最貧地域のひとつであり、住民には本土への安全な定期アクセスや信頼性できる電力、清潔な水がなかった。このために島での農業・漁業活動の成長が制約され、観光産業の潜在性が発揮されずにいた。2005 年、PIDG InfraCo Africa はこうした制約への対処を開始し、インフラ企業のカラングラ・インフラサービス (Kalangala Infrastructure Services : KIS) を設立した。今日、この島は活況を呈しており、カラングラはウガンダで最も豊かな地域のひとつとなっている。この変貌には KIS が大きな役割を果たしてきた。

-

プロジェクト

KIS はブガラ島の複雑なニーズに対応した先駆的な複合公益事業会社である。KIS は、2 隻の近代的な RORO 式のフェリーを現在提供しており、66km あるこの島のルーク-ムラバナ (Luuku - Mulabana) 間の幹線道路を整備し、島の 19 の村に浄水を供給し、さらに 1.6MW の太陽光とディーゼルのハイブリッド発電を開発している。また、最近では KTC (Kalangala Town Council : カラングラ町議会) のグリッド運営を引き継いだ。2005 年には、ブガラ島の住民がインフラの改修と開発の支援を InfraCo Africa に求めた。マルチセクターの小規模な島嶼インフラ固有の複雑さから、民間部門は躊躇し、商業的な実行可能性と手ごろな価格を両立させるために多大な専門知識が必要だった。InfraCo Africa は、その主要デベロッパーであるエレクトラ (eleQtra) を通じて、カラングラプロジェクトの設計と開発を主導した。またウガンダ政府と協力してフェリーの通行料金交渉を行い、ウガンダ初の官民複合公益事業の設立に伴う法規上の課題に取り組んだ。InfraCo Africa は、初のフェリー就航を加速させ、そのためにプロジェクトへの信頼と関与を高めるために必要な資金を提供した。さらに、様々な融資手段を融合させ、PIDG の関連企業からの支援を動員した革新的なプロジェクト融資パッケージも設計した。ウガンダ政府との交渉も進み、KIS は、KTC のグリッドの改修・運営、幹線道路のさらなる整備を目指している。InfraCo Africa は KIS に対する関心を維持しており、今後の開発に引き続きコミットしている。

-

インパクト

今日、プロジェクトの4つの要素すべてが完全に稼働しており、KISは将来に向けた野心的なビジョンを定めている。太陽光発電は規模を300%拡大し、配電・電化が拡大した。また国の補助を受けたフェリーサービスにより、住民は農作物や魚を本土に運び、販売することができる。本土への渡航が毎日できることで、住民は、遠隔地での勤務、医療や物資の入手、生鮮食品の再調達、建築資材の輸入が可能になった。KISの水道が供給される村落では、水に媒介される疾患が減少している。また、プロジェクト開始前に一般的であった仮設住宅とは対照的に、恒久的住宅への家族の定住が目に見えて増加している。

グローバル・イノベーション・ファンド（GIF）

パガ（Paga）

所在地：ナイジェリア

部門：金融サービス

投資の種類：出資

プロジェクト段階：スケール

モバイル決済およびデジタル金融サービスにおいてナイジェリアのマーケットリーダーであるパガ（Paga）に対し、500万ドルの出資を実施。さまざまな金融サービスを提供するためにキオスク、店舗、薬局などから運用される代理店ネットワークを拡大させ、現金決済経済からデジタル決済への移行におけるナイジェリアのリーディングプレイヤーとなるよう支援。

開発問題

人口1億8,600万人のアフリカ最大の経済国であるナイジェリアでは、その人口の42%が金融サービスから排除されており、その割合は以前より増加している。銀行口座を持たないナイジェリア人の内62%が、現金経済で取引し、必要不可欠な金融商品を持たないことから、社会の最貧困層は、セーフティネットの整備や貧困からの脱却の機会を得ることができていなかった。都市人口が急速に増加しているにもかかわらず、その大多数は従来の金融システムから除外されているという問題がある。加えて、女性と若年層は最もサービスが行き届いていない集団であり経済的に排除されている男性が37%に対し、女性は47%、18～25歳の間では53.5%に上る。

イノベーション

パガは、大衆向けの金融サービスのアクセスや利用の推進につながるモバイル決済およびデジタル金融サービスにおけるナイジェリアのマーケットリーダーである。パガは、急速に成長している大規模な代理店ネットワーク（小規模なキオスク店舗、薬局など）を利用して、P2P送金、銀行口座への送金、請求書払い、通信時間の購入、送金の受け取り、貯蓄など様々な金融サービスを提供し、そのプラットフォームを通じてより付加価値の高い金融サービスを導入し続けることにより、金融サービスをマスマーケットに近づけている。

このようなマスマーケットに提供され、モバイルマネーの使用を増加させるデジタル金融サービスは、インクルーシブな成長を促進する上で強力な役割を果たすことができる。

GIFの投資

オミダイア・ネットワーク（Omidyar Network）やグッドウェル・インベストメンツ（Goodwell Investments）と並行して、パガの2018年シリーズBに500万ドルの優先出資を行った。今回の投資で、パガのナイジェリアにおける金融包摂の促進に向けた代理店による全国的な活動拠

点の拡大や、ナイジェリアをデジタル金融エコシステムに転換させるのに役立つモバイル・ウォレットおよびその他のデジタル金融サービスの利用を促進するための支援を行う。また、パガのマーケットリーダーとしての地位を活かし、市場および規制の両面でシステム全体の変化に積極的に影響を与えるとともに、他の有望な金融包摂技術の発展を可能にするための支援も行っている。

ホエアイズマイトランスポート (WhereIsMyTransport)

所在地：南アフリカ

部門：運輸

投資の種類：株式取得略式契約スキーム (SAFE)

プロジェクト段階：テスト&移行

ホエアイズマイトランスポートへの 72 万ドルの投資。このオープンデータプラットフォームにより、アフリカの都市での大量輸送が、より貧しい人々にとって、より身近で、より効率的で、より安全なものになる。

開発問題

南アフリカの移動の約 70%が非正規の輸送によって行われており、こうした貧弱な大量輸送は、1日5ドル未満の購買力平価 (PPP) で生活している人々に不相応に影響を与える重大な問題である。貧困層は、収入のかなりの部分を移動費に費やしているか、あるいは電動交通機関をまったく利用することができていない。時間の節約に加えて、大量輸送の停留所での予測不可能な待ち時間を削減することで、暴行の可能性を減少させるなど、安全上での利益もある。データは効果的な輸送計画に不可欠な要素であるが、非正規輸送についてのデータの不足が、貧困層のための輸送計画を改善する自治体や事業者の能力を妨げている。

イノベーション

ホエアイズマイトランスポートは輸送テクノロジー企業であり、正規および非正規の輸送データを統合するためのオープンデータプラットフォームを政府や運輸事業者に提供している。これにより、他の企業が提供するのアプリは通勤者にリアルタイムの交通情報を提供できるようになり、地方自治体による大量輸送システムのより効率的な計画と規制が可能になり、また、貧困者にとっても大量輸送をより利用しやすく、効率的で安全なものにすることができる。

GIF の投資

GIF は、Simple Agreement for Future Equity (SAFE) の形でホエアイズマイトランスポートのシードラウンドに 72 万ドルを投資している。

AgDevCo

トランスアーバン (Transurban)

<https://www.agdevco.com/our-investments/by-investment/Transurban>

所在地：モザンビーク

AgDevCo は、トランスアーバン・アフリカ (Transurban Africa) に株式 30 万米ドル、借入 85 万米ドルを投資した。AgDevCo の投資は、モザンビークにおける差し迫った経済的障害の一部である輸入依存度の高さと、良質で手頃な価格のたんぱく質へのアクセス欠如に部分的に対処することを意図している。これらの資金は、いずれもトランスアーバン・アフリカが所有するオヴォス・ドウロ (Ovos D'Ouro) とコメルシオ・アズール (Comercio Azul) の 2 件の経営資金に充当された。

オヴォス・ドウロはイニャンバネ州のモラムベネ (Morrumbene) 地区に位置する鶏卵農場である。今回の出資により、既存の稼働状況を拡大し 5 万羽の事業にすることが可能になる。主な市場はイニャンバネ州で、現在では手頃な価格のたんぱく質源が入手できるようになっている。

コメルシオ・アズールは、イニャンバネ州に所在する小売業者である。低所得者、中所得者、高所得者に手頃な品質の製品を供給している。冷凍品や乾物、卵、電話クレジット、飲料など幅広い商品を取りそろえている。コメルシオ・アズールは、販売する製品の相当部分が現地で調達されるよう徹底し、地元企業に利益をもたらしている。AgDevCo の投資により、イニャンバネ州の新たな地区へこうした小売店舗を増やすことが可能となる。

デケルオイル (DekelOil)

<https://www.agdevco.com/our-investments/by-investment/DekelOil>

油ヤシの加工会社で、コートジボワールの何千もの小規模農家から果実を調達。

所在地：コートジボワール

AgDevCo の投資は、デケルオイルの環境・社会・ガバナンス (ESG) 活動を支援し、短期・中期融資のリファイナンスを通してデケルオイルのバランスシートを強化するために使われ、それによって運転資金と成長構想のためのキャッシュフローを確保する。

AgDevCo の資金調達を通じて支援される ESG 活動には、持続可能なパーム油円卓会議 (RSPO) プログラムに基づくデケルオイルの認証の完了、および自然や重要な生息地に悪影響を及ぼすことなく小規模生産者から果実が倫理的かつ持続可能に調達されることを保証するトレーサビリティプログラムの実施などがある。

CDC グループ

ソングス (Songas)

タンザニアでの電力供給の拡大

電力の 20%を供給するタンザニア最大の独立系発電事業者に出資している。信頼できる安価な電力供給は、企業の成長と雇用創出に役立つ。サブサハラ・アフリカでは、70%の人々が電気を利用できないが、タンザニアでは、その数字は 80%にもなる。電力がなければ、開発途上国はその経済的潜在能力を十分に発揮できないため、電力部門全体にわたる持続的な投資が必要である。2015 年、CDC グループは、ノルウェーの開発金融機関であるノルファンド (Norfund) とパートナーシップを結び、大陸最大の独立系電力生産国であるグローブ・アフリカ (Globeleq Africa) の経営権を獲得した。

ソングスの業務サポート方法

グローブが所有する企業のひとつであるソングスは、タンザニアで最大の独立系発電会社のひとつである。首都ダル・エス・サラームにある 190 メガワットの発電所は、同国の電力の 20%を発電している。ソングスはタンザニア全土の企業や家庭に電力を供給するほか、約 90 人の従業員を直接雇用し、若いタンザニア人が技術力を伸ばし、キャリアを築く第一歩を踏み出す機会を提供する、人気の高い研修員プログラムを運営している。

ソングスへの投資方法

アフリカ全体での発電量の大幅な不足に対処するため、2015 年、ノルウェーの開発金融機関であるノルファンドと提携し、アフリカ大陸最大のデベロッパーで独立発電所の所有者・運営者であるグローブ・アフリカの経営権を獲得した。同社が所有する 8 つの発電所には、タンザニアのソングスのほか、南アフリカ、コートジボワール、カメルーン、ケニアの発電所がある。この事業は、今後 10 年間で数千メガワットの発電容量をアフリカに追加することを目標としている。

グローブへの投資は、開発途上国の独立系電力会社を支援する CDC グループの取り組みの一環である。

サンカルチャー (SunCulture)

灌漑における農家支援

課題

開発途上国の農村部に住む人々の約 3 分の 2 は、小規模農業で生計を立てている。彼らは市場や投入材（農業インプット）へのアクセスが限られており、絶えずリスクにさらされている。アフリカの小規模農家の生産性は世界平均の約 50%と水をあけられ、世界の農業生産に対するアフリカの貢献はその潜在能力を下回っていることを意味している。これらすべての制約にもかかわらず、彼らは自らのために、そして都市人口の大部分のために、何とか食料を生産しているのである。多くの地域の小規模農家にとって重要な課題のひとつは、水へのアクセスである。例えば、ケニアでは、より生産性を高めるために必要な灌漑技術を利用している農家は、わずか 3% にすぎない。

アクション

2017 年、CDC グループはサブサハラ・アフリカのエネルギー市場へのアクセスに焦点を当てたベンチャーキャピタルファンド、エネルギー・アクセス・ベンチャー・ファンド (Energy Access Ventures Fund) を通じてサンカルチャー (SunCulture) に出資した。

サンカルチャーは、アフリカの農家に太陽光発電による灌漑ソリューションを提供している。現在は東アフリカで事業を展開しており、他の地域への拡大も計画している。同社は、農家のための「ワンストップショップ」を目指し、事業を成長させるための道具や知識、ファイナンスの支援を行っている。また、サンカルチャーによって訓練された技術者や農学者が、ケニア国内のどこでも利用できる携帯電話を使い、農場トレーニング、土壌分析、アグロノミーの支援も行っている。

2017 年、サンカルチャーは、太陽光発電式水道ポンプ「RainMaker」を発売した。RainMaker は、1 日に 6,000 リットルの水を汲み上げ、10 メートルの深さから水を引く現在の市場代替品と比較して最大 100 メートルの深さの井戸から汲み上げることができる上、同社の従来品より 90%も低価格である。同社は、ポンプをさらに手頃にするために、従量制 (PAYG 方式) によるファイナンスを提供している。RainMaker は携帯型の 120 ワットのソーラーパネルと蓄電池群からのエネルギーを使い、1/2 ヘクタールの農場を灌漑するのに十分な水を汲み上げることができる。飲料、調理、清掃といった家庭用の水需要も満たすことができる。

結果

「土地の余剰区域にキュウリを植えることができ、実際に収穫量が大きく伸びた。ポンプを用意する以前にはできないようなことだった」。

2017 年後半、CDC グループは、社会的企業に関するインサイトデータを提供する企業、アクュメン・リーン・データ (Acumen Lean Data) と協力し、サンカルチャーが生み出しているイン

パクトや、誰がその恩恵を受けているかを調査した結果、農家の生活にいくつかのインパクトがあることが分かった。例えば、RainMaker は地元の農家の収穫高と収入を増やし、水を得るために費やしていた時間と労力を節約できるようになった。また、農場の灌漑に利用されるだけでなく、家畜の支援にも利用でき、調理や清掃といった家庭用水のニーズにも応えられることがわかった。

データによると、農家は、井戸や掘井戸、あるいは公有の河川や湖から水を集めながら約 20 リットルのジェリカンを移動させる必要がなくなり、週に 17 時間を節約していることがわかった。彼らは現在、その時間をより生産的な用途に使用し、家族のニーズに貢献している。RainMaker を購入する前は、顧客の半数が給水用の燃料ポンプまたは発電機を使用していた。電気式給水ポンプはグリッドへの接続なしには成立しないため、農家はほとんどディーゼルを使用し、そのために灌漑は単に費用がかかるだけでなく、多くの農家にとっては手が出せない選択肢であった。顧客の中には数ヶ月間しか RainMaker を使っていなかった者もいたが、半数は結果として農場の生産性が増加したとすでに報告している。より長期間使用していた農家は、年間で平均 300% 収穫高が増加したと報告した。

「ガソリンを買って水を汲むのに費やしていた多額の現金を節約できている。」

エネルギー・環境パートナーシップ (EEP)

BBOXX

PAYG (従量課金) バイオガス

このプロジェクトでは、クリーンで便利で手頃な価格のソリューションとしてバイオガスを推進する。バイオガスの長期コストは、木炭よりも低いことが多いが、バイオ発酵槽設置の初期コストの高さが貧しい世帯にとっての障壁となっている。BBOXX は、従量課金(PAYG)と遠隔監視技術における経験のほか、ルワンダでの既存のソフトウェアや流通、サービスネットワークを活用し、生物系廃棄物をバイオガスに変換できる機器を流通させる。顧客は、バイオ発酵槽、調理コンロ、スマートバルブが提供され、調理した分だけ支払うことができる。EEP アフリカの融資は、スマートバルブの開発とバイオ発酵槽の市販前の試験設置を支援するものである。

成果とインパクト

このプロジェクトでは、バイオ発酵槽が PAYG ベースで販売できるように、遠隔監視ソフトウェアに接続されたスマートバルブを開発する。BBOXX は、量産開始前に 100 基のバイオ発酵槽を試験導入し、その後、プロジェクト期間中に、さらに 500 基の流通を目指す。薪や木炭からバイオガスに切り替えた農村世帯は、健康、安全、エネルギーコストの節約の面でメリットを得ることができる。各システムは、1 日あたり約 800 リットルのバイオガスまたは 4.4 kWh の熱エネルギーを生産する。これにより、製品寿命の間、システムあたり 20 トン以上の CO₂e を軽減し、現地の開発に貢献する。

プロジェクト開発：PAYG バイオガス

場所：ルワンダ

プロジェクト予算合計：770,330 ユーロ

EEP アフリカの融資：414,350 ユーロ

部門：バイオガス

種類：パイロットプロジェクト、単独

プロジェクト開始：2019 年～

ウンダーサイト・インベストメンツ (Wundersight Investments)

Solarwood：地域病院向けハイブリッドエネルギー

このプロジェクトは、太陽光とバイオマスのハイブリッド技術を活用して、エスワティニにある病院の熱・電気エネルギーを確保するものである。Solarwood は、0.4MW (ティア 5)のエネルギーを供給するコンテナ型プラグアンドプレイシステムである。このシステムは、シテキにある225床のグッド・シェパード病院に設置され、手頃な価格で電気への継続的なアクセスを確保し、病院がより地域に貢献できるようにする。このシステムのバイオマス・プラントは、地域の持続可能な材木植林地からの廃材や、地域の自然環境保護団体から供給される外来種のシケル・ブッシュを利用する。EEP アフリカの融資は、この革新的な技術とビジネスモデルを実証し、それによってリスクを低減して民間投資家を呼び込むのに役立つものとなる。

成果とインパクト

このプロジェクトは、年間 2,117 MWh のクリーンエネルギーを支援し、1,250 トン CO₂e 以上の排出を削減または回避する。このプロジェクトは、信頼性があり手頃な価格のエネルギーを供給する革新的なコンテナ型ハイブリッドソーラー/バイオマスソリューションを実証することにより、他の病院へ拡大する高い可能性を持つ。

プロジェクト開発者

ウンダーサイト・インベストメンツは、150MW 以上の太陽光、バイオマス、風力エネルギープラントを設計・開発する世界的なエンジニアリング企業の一部である。

場所：エスワティニ

プロジェクト予算総額：950,000 ユーロ

EEP アフリカの融資：500,000 ユーロ

部門：ハイブリッド(太陽光、バイオマス)

種類：デモプロジェクト | ミニグリッド接続

プロジェクト開始：2020 年～